

まいづる元気人

Vol.91

子ども達の居場所を作るために



母子福祉会 母子部長
森本 真理子さん

母子福祉会での活動

母子福祉会には森本さんの娘さんもお世話になっていたそう。10年前から恩返しのお気持ちも込めて最初は毎週日曜日のお手伝いから参加。活動を続けるうちに役員となり、2年前には部長になったという。「今は土・日曜日や平日の夜に親がない家庭も増えているので、家庭以外で子ども達の居場所を作ることがとても重要になっています」と語る。

ひとり親家庭の子どもを対象に「居場所づくり教室」を開催し、子ども達の安全と安心の場を作る取り組みを行う母子福祉会。「居場所づくり教室」以外にも、いきいきバス旅行やクリスマス会などの行事も行い、子ども達の成長をいつも温かく見守っている。

そんな母子福祉会で母子部長を務め、子ども達が集まりたいと思える環境を継続して作るために、日々奮闘している森本さんにお話を伺った。

ントしてもらっている。クリスマスプレゼント以外でもランドセルの寄贈を受けるなど、活動を支援してくれる団体もあるという。

子どもの成長は宝物

活動を続ける中で、子どもの成長を見ることが楽しみだという。「希望する高校や大学にいけないことを報告してくれたり、通知表を見せてくれたりします。ここで勉強して成績が良くなったと報告してくれる子もいます。子どもの成長をたくさん見れますし、子どもとともに私たち大人も成長していると思います」と嬉しそうに話す。

この環境を未来へ

子ども達は、朝から勉強することは嫌なはずだが、早起きをして教室に来る。「こは学校とは違う雰囲気のところ。違った形の家庭です。みんな自分の居場所だと思っているんだと思います。勉強しなくても、仲のいい友達と遊べる。中・高校生は集中して勉強でき、分らないところは先生に質問できる。小学生は高校生のお姉ちゃん、お兄ちゃんが勉強を教えてください、遊んでもくれる。最初は見学だけと言っていた子が気付けばずっと来るようになったりもします。親が仕事などで家にいない子は今後増えていきます。それ

を考えると、こうした活動は大事で、この活動が続けるためにも協力してくれる人は必要です。参加したい子どもはもちろん、先生として参加し、子ども達のために一緒に活動してくれる人がいれば一度見学に来てほしいです。ひとり親ならではの悩みや困っていることはあるはずなので、みんなで助け合い、一緒に子ども達の未来を守ってあげたいと思います」と森本さんの目は明日の舞鶴を見据えている。



▲小学生に勉強を教える高校生



▲居場所づくり教室の様子

※参加を希望する子ども、先生は事前に同会会長の常塚さん(☎080・1421・8186)へ。

